

## 次期生物多様性国家戦略研究会報告書（案）の概要

## (1) 位置づけ及び経緯

- 次期生物多様性国家戦略の策定に向け、取り組むべき課題及び方向性を提示するため、これまで研究会において議論してきた内容を中心に、研究会からの提言として取りまとめるもの。
- これまで、第6回、第7回、第8回の研究会において、それぞれ「骨子案」、「素案」、「案」を提示した。また、各回の研究会後に委員への意見照会等を行い修正してきた。
- 今回の研究会における議論を踏まえて必要な修正を行い、後日環境省ウェブサイトにおいて公開する予定。

## (2) 内容及び構成の概略

- 長期的・短期的に変化する社会情勢を踏まえつつ、目指すべき2050年の自然共生社会の姿を描くとともに、2030年までに取り組むべき施策を整理。

章・資料	ポイント
第1章： 目指すべき自然共生社会像	次期戦略の長期的な方向性として、2050年の自然共生社会のあるべき姿について、以下の観点から概観 ①生態系の保全・再生、②自然の恵みの持続可能な利用、③生物多様性の主流化による社会変革
第2章： 次期戦略において既存の取組に加えて取り組むべき3つのポイント	次期戦略の計画期間（2030年まで）に既存の取組に加えて特に取り組むべき課題として、以下のポイントを提示 ①生物多様性と生態系の健全性の回復、②自然を活用した解決策（NbS）の積極的活用、③ビジネスと生物多様性の好循環とライフスタイルへの反映
第3章： 3つのポイントを支える生物多様性国家戦略の構成・実施体制の改善	次期戦略の実施に多くの主体の参画を促すための戦略の構造・仕組みについて、以下の観点から提案 ①構造の明確化、②施策間のシナジー、③様々な主体の参画促進に向けた目標・指標の設定、④様々な主体の取組の可視化、⑤モニタリング・評価および施策への反映（、⑥目標指標の例示：付属資料）
付属資料： 次期戦略の目標・指標の候補一覧	本報告書の構成に沿って次期戦略の目標・指標の候補を整理